

林原美術館 NEWS

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART NEWS

vol.24
平成25年 春号

岡山の宝、林原コレクション

財団法人林原美術館館長 谷一尚

「名物大包平」という名の国宝太刀をご存知でしょうか。備前岡山藩主、池田忠継の父で、関が原の戦功により、播磨姫路に五十二万石を得、一族の所領を合わせ九十二万石となり西国の將軍と呼ばれた名将、しかも戦国武将一の高い鑑識眼を備えていたといわれる池田輝政の最も愛した太刀として有名な、名実共に日本一の名刀です。

輝政の孫で実質的初代岡山藩主光政の日記(株式会社林原蔵)にも、輝政の具足始めと称する儀式には、着用の甲冑とこの大包平を飾ることが記されています。この日記は光政自筆で二十一冊が現存。一六三七(寛永十四)年一〇月八日から隠居三年前の一六六九(寛文九)年二月二日まで、三十一年余に亘って書き続けられており、その内容は、幕府や他大名、池田一門との交渉や参勤交代、年中行事、冠婚葬祭、家臣への教諭など多岐に及んでいて、近世前期の一級の大名史料となっています。

さて、この名刀大包平、長く岡山の池田家に伝来し、戦後もしばらくは現在林原美術館の収蔵庫となっている池田家の蔵に存在したのです。しかし、さしもの林原一郎氏も、これだけの名刀は入手困難であったようで、結局国の買い上げとなり、東京国立博物館に移ってしまいました。江戸時代以来三百年以上存在した岡山から、この名刀が去ってしまったのは、返す返すも無念の極ですが、地団太踏んで

悔しがっても後の祭り、もう取り返しはつきません。このたび図らずも、岡山の宝、林原美術館の館長を拝命することとなりました。この貴重な財産の宝庫を、大包平のように岡山から外に出すことのないよう、心して勤めてまいりますので、今後とも皆様の温かいご支援とご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

左近衛権少将源朝臣
光政公乃利隆嫡男



池田光政画像(縄武像より)

特別展

特別展
「金重陶陽が慕った
川喜田半泥子と茶の湯の世界」

—石水博物館名品展—

平成25年4月26日(金)～6月23日(日)

※4月29日(月)～5月6日(月)は開館いたします。5月7日(火)は休館いたします。



石水博物館は、戦前戦後に財界人として活躍した川喜田久太夫(1878～1963、号…半泥子)が、昭和5年(1930)に地域文化の振興と社会福祉活動の拠点として、三重県津市に設立した財団法人石水会館を母体としています。半泥子は実業家として成功を収める一方で、「東の魯山人、西の半泥子」と称されたように、多くの文化活動を支援するとともに、自らも陶芸を趣味とした人物として知られています。石水博物館は半泥子の志を受け継ぎ、昭和50年(1975)に登録博物館、平成22年には公益財団法人石水博物館となり、半泥子ゆかりの千歳山(津市垂水)に新しい展示施設を新築し、平成23年5月に移転開館しました。

陶芸家としても知られる川喜田半泥子自作の茶道具類をはじめとし、半泥子と交流の深かった備前焼人間国宝の金重陶陽ゆかりの資料もあわせてご紹介いたします。これらに加え、古伊賀水指銘「鬼の首」(三重県指定文化財、桃山時代)といった茶道具や、曾我蕭白筆「山水花鳥人物図押絵貼屏風」、そして石水博物館外では初公開となる、半泥子が愛蔵していた江戸時代の浮世絵師写楽の肉筆画「老人図扇面」(展示期間…4月26日～5月12日)など川喜田家旧蔵の珠玉のコレクションも展示いたします。

本展覧会を通じ、半泥子が造りあげた名品の数々と、川喜田家の当主が代々蒐集してきたコレクションの織りなす世界をお楽しみください。



伊賀水指 銘「惣袋」川喜田半泥子作

特別展

特別展
「二次元VS日本刀展～温故十番勝負」

平成25年7月13日(土)～9月16日(月)

※毎週金曜日は、午後8時まで開館いたします。



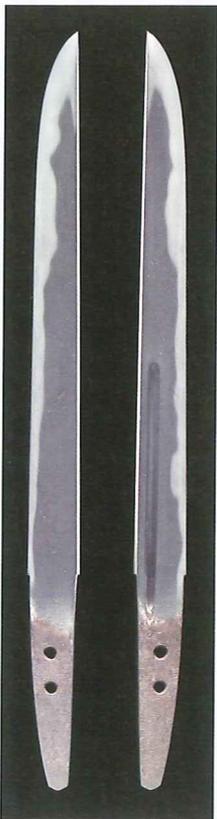
備前国・備中国・美作国を擁する岡山県は、日本が誇る美術工芸品である日本刀の聖地です。このたび、当館と備前長船刀剣博物館、瀬戸内市立美術館の三館の共催により、歴史の中を生き続け美を伝えてきた日本刀、伝統の技を受け継ぎ未来へと繋ぐ刀匠、そしてアニメーションや劇画などの新しい文化を創造するサブカルチャーアーティストたちの力を結集し、過去・現在・未来の日本刀をテーマに、国内及び海外へ、日本刀の持つ魅力と文化を発信していく特別展を開催いたします。

当館では「温故十番勝負」と題し、サブカルチャーアーティストが、館蔵の刀剣の伝来をモチーフにした絵巻物や掛け軸、そして他の収蔵品とコラボレーションした作品を作り、モチーフとなった収蔵品と共に展示いたします。

備前長船刀剣博物館では「現代十番勝負」と題し、サブカルチャーアーティストが、日本刀をモチーフに新しい作品を作り、そこに登場するオリジナルデザインの日本刀を現在の刀剣界を代表する刀匠達が打ち上げ、新しい伝説を創生しグラフィックストーリーとして完成させ展示いたします。

瀬戸内市立美術館では「未来十番勝負」と題し、「100年後の日本刀」をテーマとした公募展の開催とその優秀作品を展示するとともに、今回他館で出品する有名サブカルチャーアーティスト達からの招待作品もあわせて展示します。

本展を通じ、岡山、そして日本が誇る日本刀の文化と、現在それらに携わる人々の熱い情熱を感じていただきたいと思います。



国宝 短刀 無銘 正宗 (名物九鬼正宗)

企画展

「林原美術館所蔵近代絵画と工芸の名品」

平成25年10月1日(火)～11月24日(日)

明治維新は、社会だけでなく芸術の世界にも大きな変革をもたらします。絵画においては、江戸時代以来の伝統文化の否定と、その反動による美術団体の設立や展覧会が開かれ、互いに影響を及ぼしながら明治の新時代の表現を模索します。また、廃刀令に伴い、刀工や刀剣の金具類の製作を生業としていた職人たちの多くは職を失いますが、培った技術をいかして金工の分野や、異なつた分野の芸術へ活躍の場を広げていきます。

本展では、明治以降の日本画壇に新たな息吹をもたらした菱田春草、橋本関雪、上村松園らの館蔵作品に加え、工芸の分野で新時代を切り開いた岡山ゆかりの正阿弥勝義、逸見東洋らの名品をご覧いただけます。



寛政美人 上村松園筆

「林原美術館の知られざる名品展」

平成26年3月15日(土)～5月11日(日)

当館では約1万件の資料を所蔵しています。が、これまであまりご紹介できなかったものの中にも、著名な資料に負けないくらいキラリと光る名品が多くあります。後柏原天皇らにより明応二年(一四九三)三月十日に書された着到懐紙、戦国武将宇喜田直家の自筆書状、そして近世の狩野派によって描かれた絵画など、岡山藩主池田家に伝来した書画類を中心に、学芸員がお勧めする知られざる名品を展示します。



重要美術品 着到懐紙

イベント

美術館講座

美術作品についてより深く知っていただくために、当館では毎年美術講座を開催しております。今年は2回の講座を企画しておりますので、ぜひ足をお運びください。

❖ 特別展「金重陶陽が慕った川喜田半泥子と茶の湯の世界」

— 石水博物館名品展 — 関連イベント

開催中の特別展にあわせ、川喜田半泥子の作品や周辺資料の管理をしている、石水博物館の龍泉寺由佳氏に、半泥子と岡山の知られざる関係や、半泥子の作陶などについてご講演いただきます。

- ◇日時 平成25年5月18日(土) 13時30分～15時
- ◇演題 「川喜田半泥子と岡山—金重陶陽との交流を中心に—」
- ◇講師 龍泉寺由佳氏(石水博物館学芸員)
- ◇会場 岡山県立図書館2階 多目的ホール
- ◇定員 100名(要予約) ◇参加費 1,000円

❖ 館長による美術講演会

恒例の当館館長による美術講演会です。今回は専門が古代オリエントのガラス工芸品である館長が、これまであまり研究されていない、当館所蔵の中国のガラス作品を中心にお話いたします。

- ◇日時 平成25年12月7日(土)
- ◇演題 「林原美術館と中国のガラス」
- ◇講師 谷一尚(当館館長)
- ◇定員 100名(要予約) ◇会場 岡山県立図書館(予定)
- ◇参加費 1,000円

新しい試み

❖ 所蔵品の熟覧会開催について

平成25年12月から26年3月中旬まで、館蔵品の調査・研究のために休館させていただきますが、今までの研究成果のお披露目として、特別熟覧会を開催いたします。休館中に友の会の会員様限定で、普段はガラス越しに展示されている資料を、身近でご覧いただき、学芸員が解説します。奮ってご参加ください。

- ◇日時 平成26年1月18日(土) 13時30分～15時 「池田家文書の世界」
- 2月8日(土) 13時30分～15時 「館蔵陶磁器の名品」
- 3月1日(土) 13時30分～15時 「重要文化財洛中洛外図屏風」
- ◇講師 当館学芸員 ◇会場 林原美術館内
- ◇定員 各回25名(要予約) ◇参加費 無料

イベント

〈美術館周遊の旅〉

MIHOMUSEUMを中心に、佐川美術館（樂吉左衛門館他）を巡ります。毎年ハードな行程の日帰り旅行ですが、今回は一泊しながらのゆったりとした旅となっております。今年も、是非一泊二日、たっぷり滋賀を満喫していただきたいと思えます。（岡山発着のバス旅行になります。）

日時 平成25年8月2日（金）～3日（土）
定員 30人（要予約）
参加費 44,000円（宿泊費＋夕食代他込）

〈秋のお茶会「林原美術館竹明庵茶会」〉

林原美術館中庭にあるお茶室「竹明庵」にてお茶会を開催いたします。今回のお茶席は、一般社団法人茶道裏千家淡交会 岡山支部が担当いたします。秋の良き日にゆったりとごやかに過ごしたいだけです。初めての方も是非お気軽にご参加下さいませ。

企画展「林原美術館所蔵 近代絵画と工芸の名品」展、会期期間中（平成25年10月1日（火）～11月24日（日））に二回開催予定です。詳細は、決定次第ご案内申し上げます。

当館の理事・評議員・監事のご紹介

平成25年4月1日現在の理事・評議員・監事は左記の通りです。

理事長 長瀬 玲二 理事館長 谷一 尚
理事 越宗 孝昌
評議員 江草 安彦・鶴岡 誠・原 憲一
監事 加瀬野忠吉・武田 修一

ワークショップ

〈初心者のための茶道教室〉

今回は小学生を対象に、お茶室の入退室方法・お菓子の扱い方・お茶の飲み方・お道具や飾り物の拝見の仕方等、お茶室での基本的な立ち振る舞いをご指導いたします。講師は、一般社団法人 茶道裏千家淡交会 岡山支部の副幹事長が担当いたします。所要時間は二時間で、午前と午後で開催し、それぞれ10名の募集となります。

日時 第一回目 平成25年5月12日（日）
第二回目 平成25年6月9日（日）
定員 40人（午前と午後各10人 要予約）
参加費 1,500円

〈漆塗り箸と箸置き製作〉

備中漆の復興事業に携わっている小野忠司氏を講師にお招きし、マイ箸とマイ箸置きを製作していただきます。削りから成形の作業までを参加者が行い、実際の漆塗りの作業は、小野氏にさせていただきます。この機会にオリジナルの箸と箸置きを作ってみませんか？

日時 平成26年1月25日（土）
講師 小野忠司氏 会場 林原美術館ロビー
定員 20名（要予約） 参加費 2,200円

なお、平成25年3月12日開催の当館理事会において、理事谷一尚氏が4月1日付で新たに館長に選任されました。

谷一尚 新館長のプロフィール

昭和50年 東京大学文学部卒業
平成14年 東京大学文学博士
平成17年 岡山市立オリエント美術館館長を経て
平成25年 4月1日財団法人 林原美術館館長就任

お茶室「竹明庵」のご利用について

林原美術館中庭にあるお茶室「竹明庵」を広くご利用いただきたく、お貸し出ししております。グループでのお茶会等いかがでしょうか。手続き等詳しくは当館「茶室貸出係」までお問い合わせ下さいませ。

使用料（一日） 20,000円



「友の会」募集のご案内

- 会員の種類 年会費
 - 個人会員 1年 3,000円（新規）
2,700円（入会継続）
 - 法人会員 1年 30,000円（新規）
27,000円（入会継続）
 - 有効期限
 - 1年会員 平成25年4月1日～平成26年3月31日
 - 会員の特典
 - ① 入館料無料または割引料金
 - 【企画展】ご本人と同伴者1名様 無料
 - 【特別展】ご本人と同伴者1名様 割引料金
 - ② 展覧会・イベント情報の送付
 - 展覧会・ことに案内状の送付
 - 「林原美術館NEWS」の送付
 - その他イベントのお知らせの送付
 - ③ イベントへのご参加は、会員割引料金でのご案内他あり
- ご入会の申し込みおよび詳細は、美術館スタッフまでお尋ねください。

今年度は、新しい試みとして友の会会員限定の当館収蔵品展覧会を開催いたします。更に、友の会会員限定のお抹茶の販売や一泊二日ゆったり巡る美術館巡りの旅など、より当館に親しんでいただく企画をご用意いたしました。「何度も観たくなる、参加したくなる」美術館を目指し、頑張っておりますので、是非ご入会ください。

友の会事務局長 杉村勝子

〒700-0823 岡山市北区丸の内二一七一一五
財団法人 林原美術館

TEL 〇八六―二三三―一七三三
FAX 〇八六―二二六―三〇八九
http://www.hayashibara-museumofart.jp